

「高額商品を地べたに置かない」 棚陳列にこだわって、顧客同士の プライバシーにも配慮した空間

「frique」の特徴はいくつもあるが、その大きなものの一つとして棚陳列が挙げられる。ではなぜ棚陳列にこだわるのか。

原田さんは異業種の人との交流も深く、実際に店舗に招くことも少なくなかった。

そのとき彼らが不思議がったのは、「二枚何十万もする高額商品を、地べたに置いて販売する」という販売姿勢だった。

異業種ならば、海外の一流ブランドの財布を例にとってみても、それが十万円以下のものであれ、店員は白手袋をはめ、棚から細心の注意を払って取り出すもの。催事販売中心になり、仮設

会場で十分な什器を並べることができず、畳や絨毯の上に毛氈を敷いて、その上に大量の商品を並べるといふスタイルが当たり前となってしまう。た呉服業界人にとっては、「高額商品を扱っている」という感覚が薄れているのである。実際、同店の顧客が、「きものを地べたに並べ、あまつさえ『奥の商品を見たい』と言ったら販売員が下の商品を踏んづけていった店があった。あんな所では二度と買いたくない」と他店への不快感を露にしていた例もあった。

昔は「店」を「たな」と呼んでいた通り、棚陳列が基本だった。その点では「先祖返り」と原田さんは言う。センスのよい棚陳列を追求するた

により、駅前よりも郊外に大型ショッピングセンターやレストランなどが並び、繁盛している。商圈は大体車で一時間くらいまでの「地域密着店」である。

そんな条件下での大胆な改装。当然不安はあった。外から見て全く呉服店とわからない店構えは、一般生活者にとってもとより敷居の高い呉服

店を、余計に高い敷居にしてしまうのではないかと。しかし、店を訪れた十代、二十代の女性客たちは「以前より入りやすく、商品も見やすくなった」と喜び、その声は原田さんに勇気をくれた。

また、七五三の両親世代は「まだオープンしたてで、今回の店舗が吉と出るか凶と出るかは未知数」と原田さん

は語るが、「団塊の世代」の中にもハイセンスな人たちは多く、幅広い世代で好意的に受け止められることだろう。

呉服の松葉

三重県伊勢市田尻町
446-1 (本店)
TEL 0596・36・2568



シティホテルのロビーさながらの、1階エントランス。「入りやすくなった」と若い世代には好評だ

「棚陳列」「ブース接客」へのこだわりが見事に具現化された1階振袖売場「frique」の空間



め、海外ブランドのショッップを見て回り研究を重ねた。

また、個別のブース接客を前提として、帯や小物の入ったタンスを中心にパーティションで仕切り、それぞれに商談用のテーブルと椅子、姿見、帯締などの小物を懸ける什器

などを配置しているのもポイント。これは成人式の際、各家庭の事情や考え方によって選ぶ商品に差があるにもかか

わらず、仕切りもない場所で行なう振袖販売は、プライバシー面での弊害が多いため

ある。個別ブースを設けることにより、顧客は互いの顔を見られることなく、安心して振袖を選ぶことができる。

完成した同店を見た業界関係者は、「本来都心にあるべき店構え。こうした店が郊外にできるのは面白い」と評した。この周辺はドーナツ化現象

和装業界を知り、「時代」を知り尽くして 高いクオリティとセンスの 空間をプロデュース

(有)モリ・コミュニケーションズ 代表取締役社長 森昌史氏

現在、和装総発問屋(株)森茂の部長としての肩書きも持つ一方、(有)モリ・コミュニケーションズの社長として、WEBデザインから映像・出版物の編集制作、果ては店舗デザイン・リフォーム業まで請け負う森昌史氏。父の会社である(株)森茂に入社したのは二十八歳の時だったが、そこに至るまでに培ってきた建築デザイン、映像制作、出版等のプロデュースのノウハウと、いわばダイヤの原石のような才能溢れるクリエイターたちとの人脈を生かし、従来の呉服業界になかったカッティングエッジ(最先端)な画像、空間、セールスプロモーションツールを創り出す。

モリ・コミュニケーションズとしての事業は、もともと飲食店の店舗プロデュース業からスタートした。京都市内に「花穂」「玻璃」の二店のダイニングラウンジ、「コンセプトマシジョン」「so.ea」を次々に建て、ハイセンスな設計やMD展開で好評を得ている。

転機となったのは、振袖販促用マガジン「着たくなるロ」の制作。今年で創刊五年目となるこの本は、実際の着用年齢層の感性に訴えるべく、レイ・ウィトンをはじめとするスーパーブランドや、BEAMS、SHIPS、IENA、LASSE、PASSEEなどのセレクトショップ発ブランドとのコラボによるコーディネート提案、そしてホテルのスイートルームやクラブ、ドライブデートなど「リアルに想定される着用シーン」での自社商器着用例を大胆に見せ、業界内外に大きな衝撃を与えた。

撮影も、構図やヴィジュアルの斬新さに特化した上、各撮影コン